

チャレンジドの与えるもの

活動先：NPO法人 チャレンジド

1・活動を通して学んだこと

今回のサービスラーニングでは、美浜町にあるNPO法人チャレンジドにて6日間、活動をした。NPO法人チャレンジドは、「障害当事者と共に学び、共に生きる」をモットーに、美浜町に住む赤ちゃんからお年寄り、障害をもった人も安心して住める町づくりを進めている団体である。主な活動として、障害をもつ子どもたちを対象とした「ちゃれっこくらぶ」、身体介護や家事支援などを行うヘルパー派遣、当事者からお話を聞いて一緒に考えていく相談事業、当事者が生の声を子どもたちに語る講師派遣、など他にもさまざまな活動を行っている。

私はその中の、日中一時支援に参加させていただいた。その日中一時支援では、心のバリアフリー企画として「障害のある子とイルカ触れ合い体験交流～日間賀島～」という企画に計画の段階から話し合いに参加した。この企画は、本当に何回もチャレンジドと話し合いを重ね、さらには、子どもたちが安全に楽しく参加できるように、下見にも行った。

私は、このような大きな企画を立てることは初めてであった。何回もの話し合い、実際に企画を行う場所の下見など、数々の準備によって無事にイルカ企画を成功させることができたのである。企画から参加させていただいたことで、企画をする際に注意すべきこと、どのようにスケジュールを組めば進行がスムーズにできるかということ、みんなが楽しめるようにするにはどのような工夫が必要なのかということ、など多くのことを知ることができたのである。

私はこの企画を通して、最初に比べ、企画を立てるということに自信を持つことができ、企画力もついたのでないかと考える。

「ちゃれっこくらぶ」にも、参加させていただいた。事前学習を行って、自閉症の子どもへの対応の仕方を調べていったのにもかかわらず、実際に接してみると、初めはどのように接して良いかわからず戸惑ってしまい、積極的に子どもたちと交流することができなかった。しかし、時間が経つにつれて慣れていき、それが通じたのか、子どもたちも次第に寄ってきてくれるようになり、笑顔を向けくれるようになったのである。私はその変化にとっても嬉しくなり、積極的に交流をすることができた。活動の最後に行ったバーベキューでも、子どもたちはとても楽しんでくれ、ある子どもは、「美味しい、美味しい」と言ってくれ、たくさん食べてくれたのである。このような子どもたちの楽しそうな顔や笑顔を見て、とても充実感が得られ、もっと何か子どもたちが喜んでくれるような企画ができないか、と思った。しかし、6日間という短い期間はあっという間に終わってしまったのである。

私はこの活動を通し、障害をもつ子どもたちへの対応の仕方が十分とは言えないが、身に付いたのではないかと思うのである。肯定的な表現の仕方（自閉症の子どもたちへの

TEACCH の手法) も自然に言葉で出るようにもなり、曖昧な言い回しもしなくなった。

そして、活動をするうえでいくつか気付くこともあった。一つは、チャレンジドのスタッフの行動である。スタッフの子どもたちへの対応の仕方を見ていると、障害の種類や程度だけでなく、その子どもの性格までも理解し、対応しているということに気付いたのである。だからこそ、子どもたちも安心して接することができていたのだ。スタッフは、子ども一人ひとりをよく観察して、子どもの理解を深めているのだと思った。

二つ目に、子ども一人ひとりの表情についてである。初めは、言葉を話すことが困難な子どもたちが、どう思っているかなど、わからないことが多かったが、次第に子どもたちの表情の変化に少しずつ気付くことができたのである。このことが、その子のことをもっとよく見よう、もっと理解しようと強く思うことにつながったのだ。

三つ目に、チャレンジドの存在の大きさである。チャレンジドは、美浜町に住む障害をもつ子どもたちやその家族の人たち、障害者の方々にとっては、なくなはならない存在であることに気付くことができたのである。障害をもつ子どもたちの保護者の方にとっても信頼されていることが分かった。このよう信頼関係が築かれていることに関して、とても素晴らしいと感じ、さらに利用者さんの方たちにとっては、とても身近な存在であり、心強い存在でもあるのだと思った。

2. 障害を持つ子どもたちへの支援の充実が社会課題

NPOでの活動を通して見えてきた社会課題は、障害をもつ子どもたちの支援の充実ではないかと考える。私は、初めは、美浜町に住む障害を持つ子どもたちは、チャレンジドに来て多くの人と関わり、とても楽しい時間を過ごすことができ、ニーズに応えることができているのだと思っていたのである。しかし、スタッフの話から現状は違うことに気付くことができた。実態は、美浜町だけでなく、周りの南知多町に住む障害をもつ子どもの保護者からも、チャレンジドを利用したいというニーズが多くあったのである。

私は、このような現状を知り、美浜町やその周辺地区には、障害をもつ子どもたちを対象としたチャレンジドのような日中一時支援はあるのか気になり、グループ研究で調べた。

その結果、障害者自立支援法に基づき運営され、提供されている援助は、美浜町やその周辺地区には、なかったのである。周辺地域では、「利用したい」という声も数多くあり、チャレンジドのスタッフも、「本当はこの日中一時支援を必要としている人は数多くいて、私たち自身も、支援の提供地域を拡大していきたい」とおっしゃっていたのである。しかし、送迎などの問題もあり、なかなかニーズに応え、受け入れることが困難な状況であった。

グループ研究の際、ちゃれっこくらぶを利用している保護者の方にアンケートをとったところ、今必要な援助や支援として一番多かったのが、24時間体制で受け付けてくれる施設やショートステイサービスであった。美浜町には、そのようなサービスが存在しないのである。他の地域にあったとしても、緊急時に対応できないことも多いことが、アンケートから分かった。このような現状だと、保護者も不安で仕方がない。

このようなことから、障害を持つ子どもたちにも、チャレンジドのような多くの人と交流ができ、社会経験を重ね、成長できる場所や保護者が安心して子どもを任せることができる場所が必要であることから、障害を持つ子どもたちへの支援の充実が社会課題として挙げられる。